

# 温暖化防止むけ緑化推進

## 肥後産業G

長距離輸送や3度帯物流サイブスの肥後産業（肥後貴哉社長、鹿兒島市）を中核とする肥後産業グループは3月から、環境保全対策として鹿兒島県頴娃町で「1000本桜植樹活動」をスタートする。

創業50周年事業の一環。指宿スカイライン・頴娃インターチェンジ付近の用地（12畝）に、約5年をかけてサクラの木1千本を植え、広葉樹の育成も手掛ける。緑化活動を通じて二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）削減に寄与し、従業員の憩いの場も形成する。

地元森林組合の協力を得て用地の整備、苗木の植え付けや管理を行う。第1段階として3月初旬までに「ヤマザクラ」など200本を植樹。従業員への感謝の気持ちを含めて、サクラの木には1本ずつ従業員の名プレートを取り付けていく。

森林育成の作業に必要なへ



頴娃町の植樹用地では万全の安全対策で森林整備を推進

原料にリサイクルする。「ヤマザクラ」「ソメイヨシノ」などを植樹し、サクラ以外の広葉樹のエリアや遊歩道を設けて景観に配慮。福利厚生の一環として従業員や家族が食事、散歩、レクリエーションできるスペースをつくり上げる。

ルメットや作業服、安全靴などを準備。チェーンソー使用の資格研修も支援し、安全対策に万全を期す。

広葉樹の育成は、用地整備の伐採作業で発生した根株を地面から抜かずそのまま萌芽を待つ「萌芽更新」の方法で行い、地盤を安定させながら植樹を進めていく。また、植樹作業で生じる間伐材などは木材事業者を通じて燃料や

3月1日に創業。安全安心と社会貢献を重視した経営で、SDGsが対象とする社会課題の解決に取り組んでいる。脱炭素に向けた取り組みは、6240枚の太陽光パネルを備えた肥後産業横川発電所における発電事業を展開しているほか、グループの各拠点でLED（発光ダイオード）照明、電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HV）の導入を推進している。（上田慎二）